琵琶湖博物館 フィールドレポーター

掲 示 板

2022 年度 第 2 号 通巻 102 号 2023 年 2 月 4 日発行

キツネノカミソリ

今年度の調査結果はいかに

フィールドレポーター担当学芸員の鈴木です。ここ何年かは、秋をすっ飛ばして、夏から冬になっているなどと言われることもありましたが、今年も「12 月になったから気温を冬モードにするよ」、とでも言わんばかりの急変でした。年が明けてからは、さらに気温が下がっている印象があります。

マイクロアクアリウムで見られる琵琶湖のプランクトンたちも、いったい今はどの季節なのかわからないメンバーから、ホシガタケイソウやワムシたちのような冬らしいプランクトン相に徐々に変わってきています。自然のマミズクラゲやノロたちは姿を消して、次の出現は年度が明けてからになりそうです。

このような気候の中でも、赤とんぼ調査では多くの赤とんぼ類を発見できました。例年に見ない珍しい種もいたようですが、今年度はいったいどんな赤とんぼが見つかったのでしょうか。一方、フィールドレポーター調査「ヒガンバナは咲いていますか？」では、紙と web の双方ともに、充分な報告数が集まっており、多くの方にご参加、ご協力いただきました。はたして、滋賀県のヒガンバナ事情はどのようになったのでしょうか。結果が待ち遠しいところです。

フィールドレポーター担当　鈴木隆仁

・・・　・・・・・　も　く　じ　・・・・・　・・・

巻頭	今年の調査結果はいかに	鈴木隆仁	P1
1	2022 年度　秋の赤とんぼ調査報告	椛島昭紘	P2
2	秋の赤とんぼ調査参加者から投稿	河村　優	P5
3	びわ博フェスで万華鏡をつくる	前田雅子	P6
4	JICA 研修員が来られました	椛島昭紘	P8
5	冬に、ツバメを発見しました	大津市 野遊人	P9
6	蝶が取り持つ狐花	近江心気郎	P10
7	フィールドレポーター情報	編集室	P11
8	活動報告・予定	編集室	P12

1.　2022 年度　秋の赤トンボ調査報告

フィールドレポーター（以下 FR）スタッフ　椛島昭紘

10 月 15 日（土）、秋の赤トンボ調査をしました。場所は大津市伊香立南庄町です。この場所は７年目の調査になります。参加者の募集を FR 担当の鈴木学芸員から、はしかけのグループや博物館の関係者にも PR して頂いたおかげで、１７名の参加者が新型コロナウィルスの感染対策、マスク着用して融（とおる）神社に集合しました。

写真1

秋晴れの爽やかな天気で、絶好の調査日和でした。13 時 15 分頃から調査開始前ミーティングで八尋学芸員から、アカトンボを中心に種類やオスメスの同定のポイントについて、図鑑資料を使って説明がありました。そして、調査の際の注意点や記録カードの記載の説明をしました（写真-1）。

13 時半頃から融神社参道を出て、思い思いに田んぼの周りやため池の周辺に散らばって、調査しました（写真２）。

トンボは、田んぼやため池の周りに設置されている柵に止まっている姿が多く見られました（写真３）。

写真2

写真3

親子でそろって歩きながら調査したり、網で捕まえたトンボを図鑑で確認して記録される様子も散見されました。

また、小学生男子が捕まえたトンボを学芸員からコノシメトンボと確認して頂き、それを集まって観察しました（写真-4）。

写真4

このように、楽しい交流ができたと思いました。約１時間で調査を終わり融神社の駐車場に集合し、鈴木学芸員中心に終了ミーティングをし、記念写真を撮って15時頃に解散しました（写真５）。

ご参加の皆さん、お疲れさまでした。初めて会う方々とも会話ができて、有意義なFR交流会になりました。

提出して頂いた記録カードの集計結果は、アキアカネ370頭、ナツアカネ92頭、ノシメトンボ121頭、その他にコノシメトンボ２頭、アオイトトンボ１頭、コバネイナゴ（オス３頭、メス２頭）、アカバネオンブバッタ（オス２頭、メス１頭）でした。皆さんが熱心に調査して下さったおかげで、多くのデーターが集まりました。ありがとうございました。

写真5

記録カードの自由記述欄のＱ＆Ａ

Q1；アキアカネのメスが多かった。

A1；集計の結果もアキアカネはメスが多い結果でした。（担当）

Q2：マユタテアカネやマイコアカネはナツアカネやアキアカネより小さい。

A2；実際に体長を測ったわけではありませんが、マユタテアカネとマイコアカネは、アキアカネよりは、こぶりのイメージがあるかもしれません。近畿のトンボ図鑑によると、マユタテアカネ31～43㎜、マイコアカネ29～38㎜、アキアカネ33～46㎜、ナツアカネ33～41㎜です。ヒメアカネは23～37㎜と他のアカトンボより小さめです。（八尋学芸員）

次にこの場所で７年間観察してきたアキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの集計結果の詳細を報告します。

アキアカネ

ナツアカネ

ノシメトンボ

1，アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの各頭数とその比率

今回はアキアカネ 370 頭、ナツアカネ 92 頭、ノシメトンボ 121 頭でこれらの総数は 583 頭した。その比率は図 1 です。

2，アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボのオスメスの比率

今回の記録カードのオスとメス欄の数を合計しました。不明と記載された分は合計には集計していません。アキアカネはメスの方が多い結果でした（図 2）。

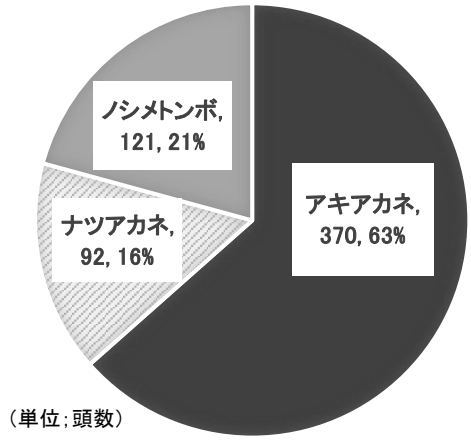


図1. トンボの数と比率

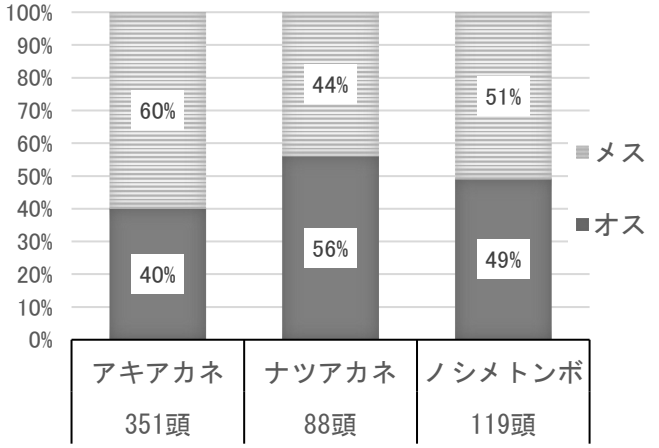


図2. オスとメス比率

3，７年間調査した、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの比率の推移

７年間の比率の推移は図３で、アキアカネは 60%前後で推移しています。

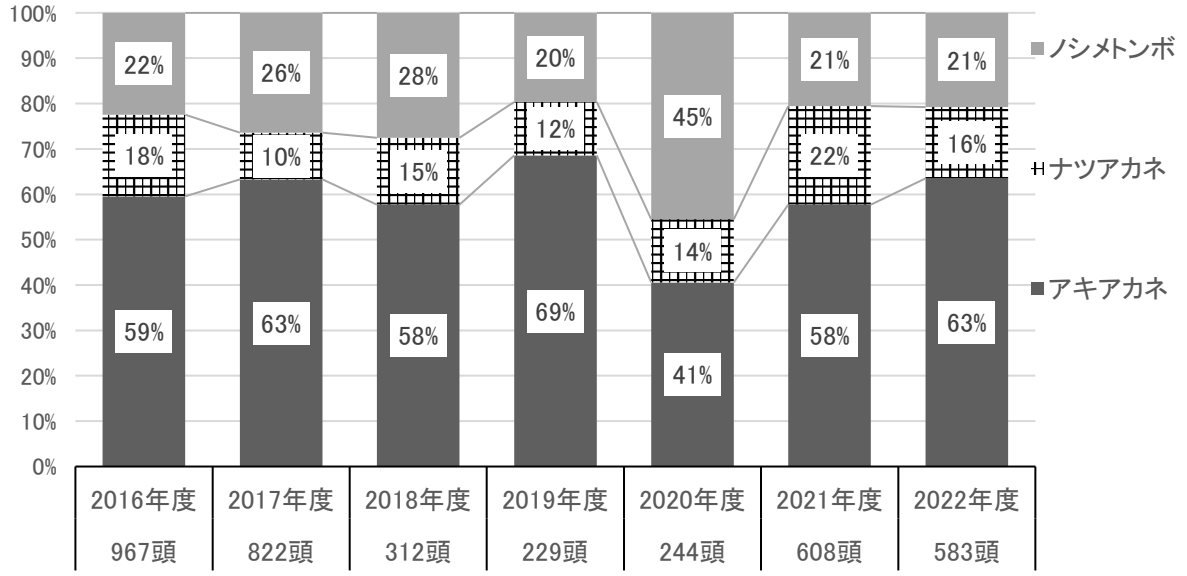


図3.過去7年間の比率の推移（調査場所;大津市伊香立南庄町）

以上

2.　秋の赤とんぼ調査参加者から投稿

赤とんぼ調査に参加して頂いたメンバーに、終了ミーティングの後、何か感想をお願いしました。
後日博物館にメールを頂きましたので紹介させてもらいます。

赤トンボは、森の近くや、田んぼに
多かったと思いました。
また、アキアカネとナツアカネの違いが
よく分かりました。
珍しいコノシメトンボや
初めて見るホソミオツネントンボなど多種多様な
トンボが見れてすごくいい機会でした。
僕は滋賀県のヤゴの調査をやっているので、
この場所近辺でヤゴ調査しようと思いました。
また参加したいと思います。

５年 河村 優

写真は、調査を終えた帰り道
融神社参道　まだ調査モード継続

写真

八尋学芸員のコメント

珍しいコノシメトンボや初めて見るホソミオツネントンボなど、多様なトンボが見つかって良かったですね。
多様な水辺環境があるため、滋賀県には 101 種のトンボが記録されています。
ぜひ 101 種のヤゴのコンプリートを目指して調べてください。

河村　優さんは、**【僕の滋賀県ヤゴ記録とヤゴリンピック！】**という命題研究結果を『メダカと水辺の生き物　博士コンテスト 2022』（主催：株式会社キョーリン）に応募され、見事キョーリン大賞を受賞されました。
素晴らしい研究成果です。
滋賀県を見つめ続けている私たちフィールドレポーターには必見の研究発表と思います。
下記アドレスにアクセスしてください。感動ものです。（編集担当、中野）

https://www.kyorin-net.co.jp/medakacon2022/

3.　びわ博フェスで万華鏡をつくる

FR スタッフ 前田雅子

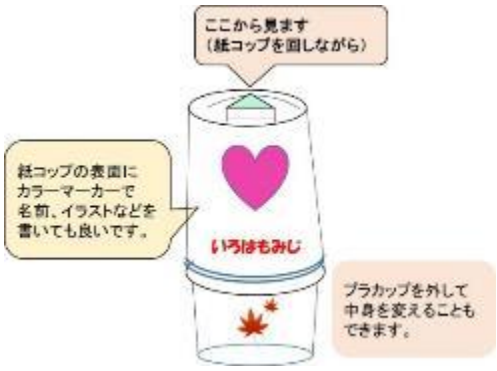
３年ぶりに開催された「びわ博フェス」で、フィールドレポーターは 10 月 23 日に「万華鏡を作ってみよう」と題するワークショップを行いました。コンセプトは“身近なものを使い、誰でも簡単にできて、しかも個性を生かした万華鏡を作る”です。

準備はぎりぎりに…

万華鏡づくりは、2018 年のびわ博フェスのワークショップで、一度実施したことがあります。今回は、効率よく作れるよう手順を整えました。

材料は、万華鏡のボディー（外筒）には紙コップを、その中に差し込む鏡には片面ミラーペーパーを、先端に取り付けるオブジェクトケースには蓋つきの小さなプラスチックカップを、使いました。そして、ミラーペーパーはあらかじめカットして折線をつけておき、紙コップの差し込み口にカッターで切り込みを入れておくなど、小さな子どもでも安全に上手く作れるようにしておきました。

準備期間は２ケ月あったのですが、スタッフの定例会が２週間に１度の集まりということもあって、結局、ワークショップ開催日の前日までバタバタと用意をして、なんとか間に合いました。



完成図（制作：椛島）

いよいよスタート！　上手く作ってもらえるかな…

ワークショップは午後１時からと午後２時からの計２回、各回とも定員を 15 名に限って行いました。

始めに、計画実施の主担当である椛島さんから、作り方の説明がありました。それに加えて、作成手順や留意点などを書いた説明書が各テーブルに１つありましたので、参加者は家族やグループで和気あいあいと、手際よく作っていらっしゃったように見受けました。

ミラーペーパーを三角柱にして紙コップに差し込みます。 みんな、それなりに真剣。

オリジナル万華鏡は仕上げで決まる！

ボディーにミラーを取りつけたら、そこからが、オリジナル万華鏡に仕上げる工程です。プラカップに入れるオブジェクト（模様材料）は、スタッフが用意した葉っぱや色紙（いろがみ）の小片から、好きなものを選んで取ってもらいました。昨秋は紅葉の始まりが遅くて、赤や黄色に染まった葉がまだ見つからない状態だったのですが、椛島さんが当日、きれいに紅葉したナンキンハゼの葉を見つけて持って来られ、イロハモミジの緑にナンキンハゼの赤が加わったことで、オブジェクトの彩りがグンと増しました。

どの色のどの大きさのものをどれくらい入れるのが良いかは、それぞれの人の好みとセンスです。この万華鏡の良さ（面白さ）は、着脱可能なオブジェクトケースを利用し、オブジェクトの種類や量をいろいろ変えることで、面白い形やきれいな模様が作れることです。ただ、今回のワークショップでは時間的な制約で、試行錯誤してもらう余裕がありませんでした。後で、自分の好きなオブジェクトに替えて、模様の変化を楽しんでいただけることを願っています。

本格的な万華鏡のボディーは、とても美しく作られています。それにはとてもかないませんが、作成工程の最後に、紙コップのボディーに自分の名前を書いたり、絵を描いたりして仕上げてもらいました。作品に彩色をすると、オリジナル感がより深まったのではないでしょうか。

ワークショップの参加者は、小学生のお子さんがいらっしゃる御家族連れが多かったように思います。万華鏡づくりは子どもだけというグループが多かったので、最終的には、万華鏡作成が 34 名、同伴の保護者を含めると 50 名以上の来場者がありました。

それでも、コロナ前の琵琶博フェスに比べると、会場内はわりあい静かでした。スタッフも、参加者に声掛けするのをためらってしまう雰囲気があったように思います。個人的な感想になりますが、さまざまな人が集まって交流するという目的を考えると複雑です。

今回のワークショップの計画段階で、前回の主担当だった井上さんが、フィールドレポータースタッフを辞めておられたにもかかわらず、いろいろ助けてくださいました。ここに、お礼を申し上げます。

4.　JICA 研修員が来られました

11 月 29 日 JICA 研修員が琵琶湖博物館での研修のため訪問されました。
研修の中で（ＦＲ）の活動も紹介しました。

担当の芦谷学芸員作成の資料によりますと、研修員はエジプト、ヨルダン、ザンビア、カンボジア、イラク、東ティモール、パプアニューギニアなどから来日、それぞれ自国では博物館の職員として勤務されているそうです。

当日 10 時から 16 時 30 分頃までの研修の内､フィールドレポーターの活動紹介は 15 時から、FR スタッフの前田雅子さんがプレゼンテーション資料（英文）を使って分かりやすく説明されました。発表終了後すぐに研修員の方からの質問があり、応答もされていて、良い活動紹介になったと思いました。前田さんの報告の様子を下に写真で紹介します。

（文、写真はＦＲスタッフ椛島昭紘が担当しました。）

芦谷学芸員のコメント

2022 年 11 月 29 日に、JICA の「博物館とコミュニティ開発」コースが、琵琶湖博物館に来館しました。博物館の説明の後、フィールドレポーターの活動紹介を、スタッフの前田雅子さんにしていただきました。
参加した研修員からは、データの取り方などについて質問がでていました。
彼らが帰国前の発表では、琵琶湖博物館のことも印象に残ったと触れられていました。

5.　冬に、ツバメを発見しました

大津市　野遊人

今年も、大津市の柳が崎湖畔公園の上空を、ツバメが数羽飛んでいました。2022 年 12 月 19 日、東北地方の日本海側や北陸地方に、雪がたくさん降ってニュースになった日です。びわこ大津館の周りを数羽旋回していました。冬のツバメです。

３年前にこの近くに引っ越しをしてから、毎年 12 月下旬頃に柳が湖湖畔公園の上空を飛んでいるのを見かけます。どこにねぐらが有って、どこから飛んでくるのでしょうね。

柳が崎湖畔の写真

亀田副館長のコメント

夏鳥として知られるツバメですが、ごく一部が越冬することがあります。また、冬鳥として日本に飛来する亜種のアカハラツバメ（名前の通り腹が赤茶色）も、少数が琵琶湖周辺で越冬しています。今度見かけたら、腹が赤っぽいかどうか、見てみて下さい。

6.　蝶が取り持つ狐花

近江心気郎

ヒガンバナ調査で、簡単に見つからないと思っていたキツネノカミソリに出会いました。
偶然か？努力か？　その顛末をご紹介。

＊＊＊＊＊

ヒガンバナ調査に当たって、準備、勉強会を重ねました。どんな調査でも種類分けが課題であり、ヒガンバナ類の品種観察報告もテーマになっていて、キツネノカミソリが入っていました。是非見つけてみたい。

ヒガンバナ（子季語狐花）

ところが今調査に関して、一向に気乗りがしません。理由は分かっています。わたし的には、ヒガンバナは「火事花」であり「死人花」です。みんなで決めたテーマ故、実行することにヤブサカではありませんが、本音を言うなら「なんでこのテーマやねん？」という気持ちでした。調査が始まったら家の前に、鬱陶しく、これでもかと咲く“曼珠沙華”をレポーター目線でそれらしく追っかけたら、何とか格好が付くだろうと、その程度の気持ちでした。

＊＊＊＊＊

７月 17 日(日)フィールドレポーター交流会が開催され、ヒガンバナの説明もあって、実質調査のスタートになりました。

同日、琵琶湖博物館では第 30 回企画展「チョウ展」も開催スタート。これでもか、というくらいの数のチョウが展示されました。これを見て、久しぶりに心が揺さぶられました。
「チョウを捕まえよう！」幼い頃、田舎でチョウと戯れていた記憶がクッキリと蘇ってきました。
ヒガンバナはどうなる？
「そんなもん、どうなるか分からん。」

ツマグロヒョウモン　♀

＊＊＊＊＊

私の活動は、どんな内容でも茶臼山（膳所、秋葉台）がスタートです。

チョウの専門家から茶臼山は絶好点とのお墨付きをもらい、虫取り網も新調し行動開始しました。夏休みのこの時期、普通なら子供たちの虫取りで賑わっており、縄張り争いを心配しましたが、昔多かった“虫小僧”は今や絶滅種と成り果て、山の空間は独り占め。従ってホクホクの成果と思いきや、ほとんど実績無し。沢山作った蝶用の三角紙が分厚すぎて邪魔。35℃近い真夏日の中、体を張った活動が何故報われないのか？専門家に聞きます。　「何故？」・・・・・
答え「そら、蝶かて暑いのはきらいやわ、木々の中の涼しい処に止まっとる」
「もうちょっと涼しいなったら、じゃんじゃん飛びよる」・・・
　ハアーッ。「そんなん、先に言うて、ほしい、ワ！」

🦊＊＊＊＊＊🦊

とはいえ、日中は避けて足を運びましたが成果無く、お盆を過ぎてしまいました。

そして運命の８月28日。山の麓です。土手の斜面。いつも通って見ているはずの草むらに、橙色の花が一本鮮やかに咲いていました。近づくのも難しい場所なので、写真に収めて翌日博物館に持ち込みました。なんと、キツネノカミソリと認定してもらえました。まさに、狐に化かされた心境でした。伊吹山の方では、今でも狐が一緒に出てくるらしいです。普通なら絶対見つからない場所なのに、蝶々探しの余得がこんなところで出ました。猛暑のなかの活動は、無駄でなかったと心底思えました。

一本だけ
キツネノカミソリ

さて、一般のヒガンバナの葉は咲き終わり後の秋から冬に出ますが、キツネノカミソリの葉（刃）は春に出てくるそうです。

なので、期待を込めて見届けたいと思っています。穏やかな気候の中、春の蝶たちが、茶臼山いっぱいに咲くカンサイタンポポの蜜を求めて飛び回り始めているでしょう。【完】

🐓 🐓 🦆 🐓 🐓 🦆

7.　フィールドレポーター情報

○　スタッフを募集しています

新年度を迎えフィールドレポーター活動の充実を図りたいと考えています。
“我と思わん方”“チョットやってみようかな”どんな考え方も歓迎です。
難しいことはやっていません。
活動予定日を見ていただいて気軽に交流室を覗いてください。

○ {びわはく}に活動報告が掲載されます。

琵琶湖博物館情報誌 2023 年号、「びわはく・７号」の＜フィールドからの新発見＞というコーナーに執筆依頼がありましたので寄稿を済ませました。
「えッ！こんなところにもヌートリア」を紹介させてもらいます。
７号の特集は「鮒（ふな）」になるようです。６月刊行予定です。

8.　活動報告・予定

2022 年度（10～12 月）の活動報告

月	日	場所	参加者	主な議題・活動
10 月	1 日（土）	交流室	5 名	①びわ博フェス準備　②掲示板 101 号発刊
	15 日（土）	伊香立 融神社	15 名	①　秋のトンボ調査 ②　参加者との交流会
	22 日（日）	交流室	6 名	びわ博フェス 2022・初日 ワークショップ参加準備
		博物館ホール		フィールドレポーター活動紹介（代表者）
	23 日（土）	会議室	50 名	2022 年度びわ博フェス・2 日目 ワークショップ　　「万華鏡をつくろう」
11 月	5 日（土）	交流室	5 名	①　びわ博フェス 2022、反省会 ②　博物館機関誌「びわはく」投稿内容検討
	19 日（土）	交流室	5 名	①　ヒガンバナ調査。進捗報告 ②　博物館機関誌「びわはく」提出原稿検討
12 月	3 日（土）	交流室	6 名	①ヒガンバナ調査進捗報告　②掲示板 102 号内容検討　　③2023 年調査内容自由討議

2022 年度　2023 年 1 月～3 月の活動予定

日　時		内　容	場　所
1 月	7 日（土）　13：30～16：30	定例会	交流室
	21 日（土）　13：00～16：30	定例会（都合により中止）	交流室
2 月	4 日（土）　13：30～16：30	定例会	交流室
	18 日（土）　13：30～16：30	定例会	交流室
3 月	4 日（土）　13：30～16：30	定例会	交流室
	18 日（土）　13：30～16：30	定例会	交流室

定例会は原則として、第1、第3土曜日の 13：30～16：30 に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。

なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係（Email：freporter@biwahaku.jp）までお問い合わせください。

編集後記

久しぶりにイベント関係の記事満載になりました。「トンボ調査」びわはくフェスの「万華鏡ワークショップ」開催記事、一般投稿もフィールドワーク関連で生き生きとした感じでまとめられ、とてもうれしく思います。（編集担当・中野）

滋賀県立
琵琶湖博物館
〒525-0001　滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp